



状況に応じた**対応**を考えよう

大雨が発生した場合
 甲賀市から発表される避難情報（避難準備情報、避難勧告、避難指示）に従い行動しましょう。
 また、雨の降り方や周辺の状況から**“あぶない”**と感じたら、**自分から進んで早めに避難をしましょう。**

発表される気象情報	大雨洪水注意報	大雨洪水警報	記録的短時間大雨情報
発表雨量基準 (彦根地方気象台資料より)	平坦地：1時間雨量25mm 平坦地以外：3時間雨量90mm	平坦地：1時間雨量 50mm 平坦地以外：3時間雨量170mm	1時間雨量90mm

 やや強い雨 (1時間に10~20mm) この程度の雨でも長く続く時は注意が必要です。	 強い雨 (1時間に20~30mm) 側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まります。危険な地域では、避難の準備が必要です。	 激しい雨 (1時間に30~50mm) 山崩れ・がけ崩れがおきやすくなり、土石流が起こりやすくなり、多くの災害が発生します。	 非常に激しい雨 (1時間に50~80mm) 土石流が起こりやすくなり、多くの災害が発生します。	 猛烈な雨 (1時間に80mm以上) 雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。
---	--	--	--	---

大きな地震が発生した場合
 揺れがおさまったら、ため池のすぐ下流にお住まいの方や作業中の方は、高台やため池から離れた場所へ避難しましょう。外への避難が困難な場合は、家の2階のため池とは反対側の部屋へ移動しましょう。

自宅に留まることも選択肢の一つ
 浸水の中を避難することはとても危険です。浸水がすでに始まっている場合や、自宅がため池から離れており浸水被害が小さいと予想される場合は自宅に留まり、2階へ避難するというのも選択肢の一つです。

家屋の浸水を軽減する方法『ゴミ袋による簡易水のう』
 40リットル程度の容量のゴミ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。これをダンボール箱に入れ、連結して使用します。

避難をする時に注意すること

- ◆ため池決壊以外の災害も意識する**
 ため池が決壊するおそれがある状況では、周辺で右図のような災害も発生している可能性があることに注意して避難しましょう。
- ◆危険な場所は避ける**
 できるだけ狭い道や塀ぎわ、川や水路の近くなどは避け、安全な広い道を選んで避難しましょう。
- ◆浸水し始めたら無理をしない**
 歩ける水深の目安はひざくらいまでです。水深が浅くても流れが速くなると大変危険なので、無理をしないようにしましょう。



災害用伝言ダイヤル 171
 大規模な災害が発生したときの「声の伝言板」です。安否確認にご利用ください。

171 にダイヤル 案内が流れます

伝える場合 **1** 録音の案内が流れます

聞く場合 **2** 再生の案内が流れます

市外局番 - 被災した家の電話番号

※被災地の人は自宅の電話番号を、被災地以外の人は被災地の人の電話番号を市外局番から入力

甲賀市 **ため池ハザードマップ**

滝谷池 版
 このマップでは、滝谷池が決壊し、全ての貯水量が流出する状況を想定しています。

避難経路図
 ご自身が避難する際の経路を記入してください。

わが家の防災メモ いざという時あわてないために、家族の連絡先を記入し、緊急時の集合場所、避難場所を決めておきましょう。

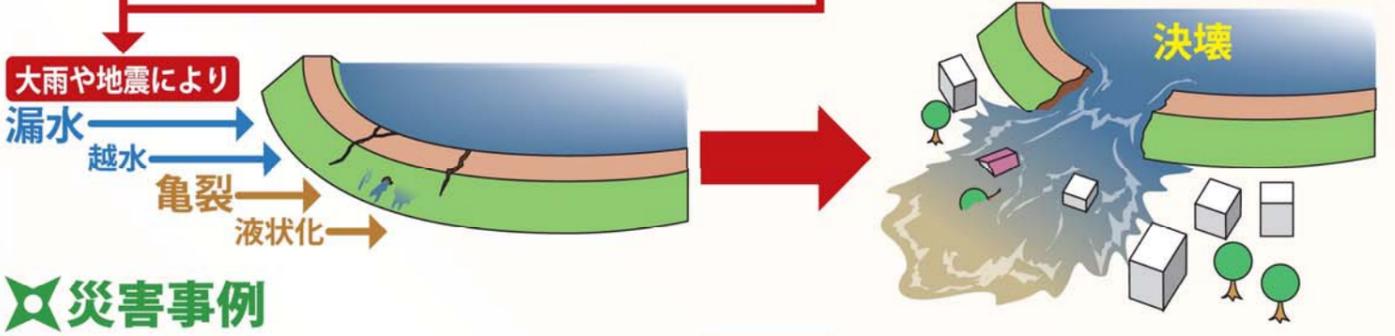
名前	生年月日	血液型	連絡先

ため池**決壊**について知ろう

ため池決壊の原因と起こり方

大雨 ため池の水位が急上昇することで、堤防に水が浸透し漏水が発生したり、堤防を越えた水の勢いで浸食されたりして決壊が発生します。

地震 揺れにより堤防に亀裂が生じ、そこから漏水が発生したり、地盤の液状化により堤防が大きく変形したりすることで決壊が発生します。



災害事例

大雨 **平成16年 台風23号**
 大雨により淡路島内の1,299箇所のため池が被災し、181箇所のため池が決壊しました。
 洲本市では、ため池決壊に伴う河川増水により2名の犠牲者が出ています。

地震 **東北地方太平洋沖地震 (平成23年3月11日)**
 震度6弱の揺れで、山の上にある藤沼湖が決壊し、死者・行方不明者8名を出す被害となりました。
 ●地震発生から20~30分後に決壊。
 ●田植え前で満水状態であった貯水が全て流出。
 ●下流の集落に土石流となって押し寄せた。



甲賀市ため池ハザードマップ

地震



滝谷池 版

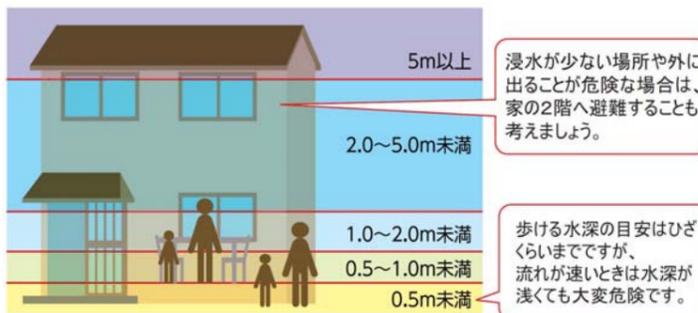
【ため池ハザードマップについての説明】

- ・ため池の水が満水状態で決壊し、全ての水が下流へ流れてきた場合の想定最大浸水深を示しています。
- ・地震単独でのため池決壊を想定しており、大雨と重複した場合の想定はしていません
- ・解析結果は、浸水範囲がやや大きくなる傾向があります。地震によるため池決壊時に想定される浸水区域を着色して示しています。ただし、大雨時には周辺の河川等が氾濫し、着色した範囲を超えて浸水することも考えられるので留意が必要です。
- ・参考情報として大雨時に発生することが予想される土石流の危険区域（甲賀市防災マップによる）を記載しています。大雨時には土石流が発生する可能性がありますので、避難する場合には周辺状況に留意が必要です。

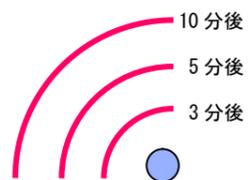
【ため池決壊時の被害軽減のポイント】

- ・これまでに経験したことのない大きな地震があった場合は、浸水する場所からすぐに避難する行動が重要です。
- ・非かんがい期には、ため池の水位を下げることも重要です。

浸水時の最大浸水深〔色の区分〕



浸水到達時間



ため池が決壊してから水が到達するまでの時間
(地震が発生してから時間ではありません)

土石災害危険区域

- 急傾斜地の崩壊
- 土石流 (参考)

危険箇所・過去の被災箇所



住民の方から伺った地域の危険箇所や過去に災害があった箇所

避難所

- 指定緊急避難場所
災害が発生し、又は発生するおそれがある場合に、その危険から逃れるために一時的に避難する場所
- 指定避難所 (第一次開設) (第二次開設)
災害により家に戻れなくなった市民等が滞在する (避難生活を送る) ための施設
- 指定緊急避難場所 兼 指定避難所 (第一次開設) (第二次開設)
災害により家に戻れなくなった市民等が滞在する (避難生活を送る) ための施設

(その他意見や情報など)

- ・非かんがい期には、ため池の水位を低く保つような管理が必要。
- ・付近の断層の状況や近年のゲリラ豪雨の状況等も注意しておくことが必要。
- ・1つの目安として震度6程度の地震が発生した時に、特に注意が必要。
- ・ため池がいつ決壊したか分かるような体制等を検討。
- ・川敷池やその他近隣のため池が決壊した場合の検討が必要。

